

青森県の取組み

青森県健康福祉部
がん・生活習慣病対策課

△糖尿病による死亡率が全国ワースト

人口動態統計によると、青森県の糖尿病による死亡率は、平成26年から平成28年まで3年連続全国ワースト1位で、平成29年は46位と、ワースト1位からは脱却したものの、人口10万人当たり19.1で、前年から2.0ポイント増加し、近年では最も高い数値となつており、本県は、糖尿病が原因で亡くなる方がとても多い状況にあります。

△これまでの取組み

県ではこれまで、県民の皆さんが、自らの健康を大切にし、生き生きと暮らしていけるよう、青森県基本計画「未来を変える挑戦」において、健康で長

生きな青森県を目指して、各種施策に取り組んできました。糖尿病に関しては、治療中断者に対する再受診の働きかけや、効果的な介入を行うための人材育成のほか、青森県医師会、青森県糖尿病対策推進会議の三者による「青森県糖尿病性腎症重症化予防連携協定」を締結し、糖尿病性腎症の重症化予防等を目的とした「青森県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定するとともに、本プログラムをもとに市町村が、地域の実情に応じた糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定できるよう支援してきたところです。

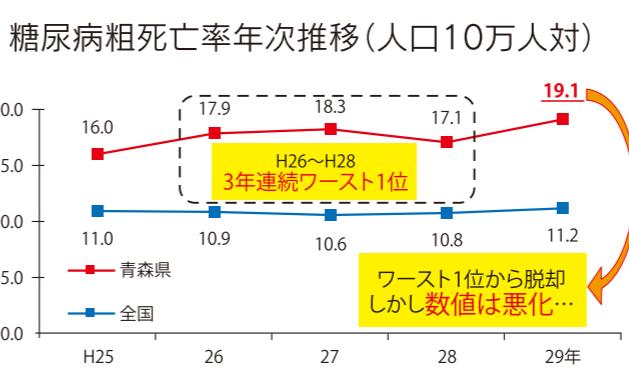
さきごろ厚生労働省が公表した平成27年都道府県別生命

表では、本県の平均寿命は男女とも全国最下位であったものの伸び幅は全国3位と明るい兆しも見えてきました。また、平成28年度青森県県民健康・栄養調査においても、野菜摂取量や平均歩行数が男女とも増加し、習慣的に喫煙している人の割合が男性で減少するなど、生活習慣においても改善傾向が見えており、今後に大きな期待を寄せてています。

今後、さらに改善していくためには、特に糖尿病への対策、すなわち、糖尿病の発症予防と重症化予防の取組みが重要となっています。

△糖尿病による死亡率はなぜ高い?

背景には、当事者自身の糖尿病に関する知識や理解が不足していることにより、生活習慣の改善などの予防に向けた行動をとらないこと、糖尿病の可能性があつても適切な受診をしないままに放置したり、自己判断で治療を中断してしまうことにより状態が悪化してしまうことなどがあると考えられます。



そこで、県民の皆さんに糖尿病の正しい知識を理解していく様子から、「糖尿病リテラシー向上キャンペーン」を開催しています。キャンペーンのメインは、知事をトップに県職員で構成するPR隊「高血糖ストップパーズ」の結成です。

高血糖ストップパーズは、青森県民を糖尿病から守るべく、糖尿病のポイント、糖尿病による合併症の危険性・生活習慣の改善による血糖コントロールの重要性について、子どもからお年寄りまで県民全体におもしろく、わかりやすく伝えることをモットーに、県内各所のステージイベントや市町村の健康まつり、民間イベントなどを交え、県民の皆さんに直接訴えかけています。

そんな彼らを、ぜひ、県内の各種イベントや健康まつりにお招きください!



高血糖ストップパーズPR活動の様子